

理科 第6学年 大地のつくり

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍の年間指導計画にある「大地のつくり」に対応した独自案。教材本文・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

本案で見るのは、児童が「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」に対し、観察結果と考えを区別して答えられるかである。土地は礫・砂・泥・火山灰などからでき、地層は流れる水や火山の働きでできるというまとめを暗唱できるだけでは、本時の目標に届いたとは判断しない。安全な場所で採取済みの礫・砂・泥・火山灰の標本を見比べ、粒の大きさや形を記録する。水で運ばれた土砂がたまる模型の様子と地層写真を照合し、化石や粒の特徴も証拠にしてでき方を説明する。根拠の指示し方や説明の修正を見ることで、教師は次に何を確かめればよいかを判断できる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第6学年〕 B生命・地球(4)	(4) 土地のつくりと変化 土地のつくりと変化について，土地やその中に含まれる物に着目して，土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔第6学年〕 B生命・地球(4)ア (7)	(7) 土地は，礫《れき》，砂，泥，火山灰などからできており，層をつくって広がっているものがあること。また，層には化石が含まれているものがあること。
〔第6学年〕 B生命・地球(4)ア (1)	(1) 地層は，流れる水の働きや火山の噴火によってできること。
〔第6学年〕 B生命・地球(4)イ	イ 土地のつくりと変化について追究する中で，土地のつくりやでき方について，より妥当な考えをつくりだし，表現すること。

単元の目標

土地は礫・砂・泥・火山灰などからでき、地層は流れる水や火山の働きでできることを理解し、実物の観察・実験と記録を扱う技能を身に付ける。「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(B(4))

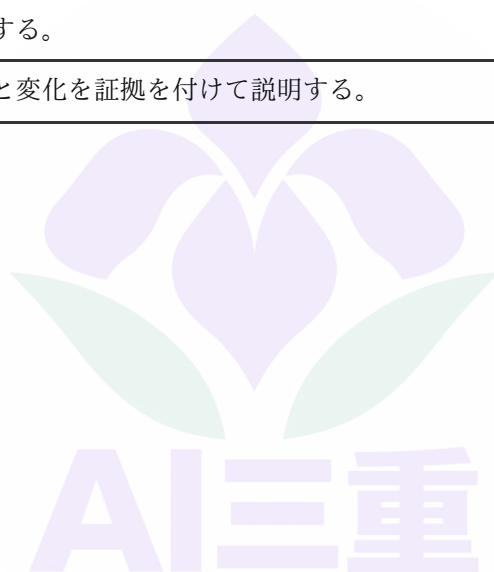
評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①土地は礫・砂・泥・火山灰などからでき、地層は流れる水や火山の働きでできることを理解している。 ②実物の観察・実験と記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」について結果や資料を比べ、当初の説明を確かめ直して、より妥当な考えを表現している。	①大地のつくりの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画の配当「9(9)」を参照。全9時間はcatalog収録の標準配当。以下の各次への配分と本時の位置は本資料の授業案であり、出版社の授業配当の転載ではない。学校の年間計画と観察・調査の進み方で調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○地層の写真から疑問を出す。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	3～4	○礫・砂・泥・火山灰を見分ける。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	5～6	○水で運ばれた物の積もり方を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	7	○化石や火山灰を手掛かりにでき方を検討する。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	8 （本時を含む）	○礫岩・砂岩・泥岩と堆積物の粒を標本で比べ。 ○安全な場所で採取済みの礫・砂・泥・火山灰の標本を見比べ、粒の大きさや形を記録する。水で運ばれた土砂がたまる模型の様子と地層写真を照合し、化石や粒の特徴も証拠にしてでき方を説明する。	思①（個人の説明・記録）
第6次	9	○土地のつくりと変化を証拠を付けて説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）



本時の案

本時の目標：「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」について結果や資料を比べ、当初の説明を確かめ直して、より妥当な考えを表現することができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「地層の写真から疑問を出す」ときの疑問を取り出す。 ○「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・土地は礫・砂・泥・火山灰などからでき、地層は流れる水や火山の働きでできるのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・崖や工事現場へ立ち入らない。地層の観察は事前下見した安全な場所か標本・写真で行う。粉じんを吸わないよう標本を散らさず扱う
展開 （ 分）	○前時までの観察・調査の記録を使う。以下に示す調べ方を振り返り、本時は問いに関係する記録を比較する。追加の実験・調査は方法を計画し、次時に確認する。 ○安全な場所で採取済みの礫・砂・泥・火山灰の標本を見比べ、粒の大きさや形を記録する。水で運ばれた土砂がたまる模型の様子と地層写真を照合し、化石や粒の特徴も証拠にしてでき方を説明する。 ○「どの観察結果から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認直す。 ○異なる記録を比べ、根拠と矛盾する説明を修正して考察を表す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・化石や火山灰を手掛かりにでき方を検討することで、理由を確かめたい。	・しま模様だけで川が作ったと決める場合は、火山灰の層の資料も示す。模型でできた層と実際の地層の規模や時間は同じではないことを確かめ、証拠からいえる範囲を示す ・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ・本時に単元全体の実験や調査をやり直さない。比較する記録を準備し、方法を確認する必要がある部分だけを実物で示す。 ◎思① 「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」について結果や資料を比べ、当初の説明を確かめ直して、より妥当な考えを表現している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる観察結果とともに書く。 【まとめ】土地は礫・砂・泥・火山灰などからでき、地層は流れる水や火山の働きでできる。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは得られた記録の範囲に限定する。予定どおりの結果が出なければ条件と方法を見直し、実測結果を作り替えない。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ・本時の重点は「異なる記録を比べ、根拠と矛盾する説明を修正して考察を表す。」であり、知識の結論だけで思考の評価を決めない。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

板書の構造

上段に「大地のつくり」と本時の問い「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。化石や火山灰を手掛かりにでき方を検討する際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

つまずきやすい所と手当て

しま模様だけで川が作ったと決める場合は、火山灰の層の資料も示す。模型でできた層と実際の地層の規模や時間は同じではないことを確かめ、証拠からいえる範囲を示す

準備するのは、学級で使う実物や資料と、対象・条件・時期を対応させて残せる記録用紙である。教師は事前に資料の出典や器具の働きを確かめ、児童に渡す記録と教師の説明を区別する。崖や工事現場へ立ち入らない。地層の観察は事前下見した安全な場所か標本・写真で行う。粉じんを吸わないよう標本を散らさず扱う

本時の評価で説明と根拠が結び付かない場合は、言葉を追加して教え込む前に、比べる対象がそろっているかを見直す。口頭では説明できるが記述が難しい場合は、図と指差しも証拠として残す。

プリントの案

大地のつくりの問いと記録

上段は「調べたいこと」と「最初の考え・理由」。中央は対象、条件・時期、分かった事実、確かめた方法の欄。安全な場所で採取済みの礫・砂・泥・火山灰の標本を見比べ、粒の大きさや形を記録する。水で運ばれた土砂がたまる模型の様子と地層写真を照合し、化石や粒の特徴も証拠にしてでき方を説明する。下段に事実から考えた説明と残った疑問を書く。教材本文・写真は印刷せず、利用できる実物や公的資料の出典を書き入れる。

説明を確かめ直すカード

問い「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」への自分の答え、根拠の記録、友達の説明との共通点・相違点、修正した箇所と理由の欄を設ける。修正しない場合も根拠を確認した理由を書く。文字を書く代わりに図や口頭説明の記録も使える。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）。本文は取得済みの文部科学省表V1.2と照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校理科。評価の観点と記録を用いる考え方を参照。事例の文章は転載していない。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_rika.pdf）／東京書籍年間指導計画。単元名・配当時数・掲載時期の出典。（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/rika/data/rika_nenkankeikaku_6_saian.docx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

